



「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」 安彦 良和作

昭和44年生まれの私にとって、「機動戦士ガンダム」と言えば、「ファーストガンダム」シリーズです。小学校卒業直前に公開された劇場版三部作を食い入るように見ていました。本書は、ガンダムシリーズの劇画版です。タイトルに付いた「THE ORIGIN」が示すように、昔に見ていた「ガンダム」とほとんど変わらないストーリー展開で、さらに、テレビシリーズでは放映されていなかったサイドストーリーも描かれています。例えば、キャスバルがなぜ、シャア・アズナブルになったのか？その生い立ちから、「赤い彗星」になるまでの経緯。そもそもモビルスーツとは、どのように開発されたのか？なぜ、「ジオン軍と連邦軍の間の技術力にあれほどの差ができたのか？そして、なぜ「ガンダム」というマシンを連邦軍が開発することができたのか。子供の頃に疑問に思いながらも、解消するすべもなく時間が経っていた事柄が、次々に解き明かされていきます。まるで、本書が原作であったかのようです。

最初にガンダムを見たときは、主人公の少年より年下でした。気がつけば、主人公やその周囲の大人達よりも年上になっていました。今の視点から読むと、主人公の少年達だけでなく、当時は横暴に見えた大人達も、それぞれの立場で必死に戦っていた事がわかります。そんな丁寧な人物描写が30年にわたって続くガンダムシリーズの魅力であることを改めて知りました。

M T



角川コミックス

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞